

172) 思い出色に染まってく

^{かな} 哀しいことに出逢うたび ^{しおさい} この潮騒を聞きに来た
人と別れた哀しさを 海の響きにぶつけたら
涙は風に飛ばされて 心が少し軽くなる
^{さいげつ} 歳月に包まれて 過去の日は遠ざかり
喜びも哀しみも 思い出色に染まってく

嬉しいことに出逢うたび この砂浜を走ってた
魔法の術を手に入れて 得意顔したわたしの
^ひ 陽が沈んでもそこにいて 月の光と ^{たわむ} 戯れた
歳月に包まれて 過去の日は遠ざかり
喜びも哀しみも 思い出色に染まってく

苦しいことに出逢うたび この学校の庭にきた
破れた恋の空しさに 昔の彼に逢いたくて
ひたむきだった若き日を 心の底に探してた
歳月に包まれて 過去の日は遠ざかり
喜びも哀しみも 思い出色に染まってく

大人になって哀しみも 嬉しいこともなくなった
後ろ姿の寂しげな 大人なんかにならないと
^{かたいじ} 片意地はって生きていた 少女時代が懐かしい
歳月に包まれて 過去の日は遠ざかり
喜びも哀しみも 思い出色に染まってく